

ぼくたちにお昼ごはん おごってくださいませんか？

## 2013年度 活動報告書

特定非営利活動法人IFE



駐日ベナン共和国特命全権大使 ソマホンから皆様へ



2009年に開始して、今年は2013年ですから、給食プロジェクトは4年目に入りました。

ビートたけしさんにアイデアを頂き、私が設立したIFE財団で実施している給食プロジェクトは、母国ベナンのヤイ・ポニ大統領が決定した義務教育無料化とともに、ベナンにおける就学率を高めるための非常に重要なプロジェクトとなっております。その証拠に、2004年に約68%であった就学率は、2012年10月のベナン政府の統計によると、82%を超えました。

これは非常に嬉しい事で、国を発展させるために一番やらなければならないのは人的教育です。それを支える給食プロジェクトを支えて下さっている皆様や、日本のODAからは、非常に大きな成果を頂いております。

私はベナンの国民、特にベナン共和国のヤイ・ポニ大統領の名に基づいて、約1億3000万人の日本国民の皆様、特に給食プロジェクトを支えて下さっている皆様に、心からお礼を申し上げます。

皆様のご健康とお幸せを祈っております。  
これからも、給食プロジェクトを宜しくお願い致します。

駐日ベナン共和国大使館 特命全権大使 ソマホン D.C. ルフィン

給食会員の皆様

拝啓

日頃より「ぼくたちにお昼ごはん おごってくれませんか？」プロジェクトにご賛同下さり、誠にありがとうございます。

本プロジェクトもお陰様で2009年のスタートから、早4年目を迎えました。これも皆様方のご支援とご愛顧によるものと、心から感謝いたしております。

また事務局の一員として、この活動に少しでもお役立ちできるよう、今後も活動を継続して参ります。

どうか今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

それでは、2013年度の活動報告をご覧下さい。

敬具

「ぼくたちにお昼ごはんおごってくれませんか？」事務局

2012年12月27日～2013年1月8日まで、給食プロジェクトの状況確認と、その結果を会員の皆様に報告する事を目的として、私、山道はベナンに行ってきました。

日本-西アフリカ間は飛行機の直行便がないため、今回はフランス経由でベナンに入りました。フランスで1泊しなければならなかったため、まる1日がかりの移動です。私にとって、8年ぶりとなるベナン共和国の訪問でした。

ベナンに到着したのは、午後11時過ぎ。飛行機のドアが開いて、タラップ（飛行機の階段）に足をかけた瞬間、潮風が爽やかに薫ります。そう、ベナン共和国コトヌー国際空港は大西洋が目と鼻の先にある空港です。空港には現地IFE（イフェ）財団の職員と日本から派遣した駐在員、そして日本語学校の先生が出迎えてくれました。

到着してから3日間は、経済都市コトヌー市にあるIFE財団の事務所に宿泊しました。その3日間で、現地調査のスケジュール打合せ、水、食料等の調達、移動で使用する車のメンテナンス（タイヤ交換、オイル交換）等をぬかりなく行いました。

なぜ、3日間もの準備が必要かといえは、給食を提供している小学校は、一番近い学校でもコトヌー市から片道4時間以上もかかる移動だからです。一番遠い小学校だと片道の移動でも1日以上はかかります。もちろん日本のように道中にコンビニがあるわけでもなく、ガソリンスタンドもそんなに沢山はありません。1つの準備不足が大変な事態を招くのです。

加えて今回は短期間での現地調査だったため、マラリアにかかっては何もできないまま帰国か、最悪は帰国できなくなります。そこで今回は「つなぎ」を着て蚊に刺されないよう、万全を期して臨みました。

日本との時差はマイナス8時間。1月1日午前9時（現地時間）。いざ小学校に向けて出発！日本ではこたつに入ってお屠蘇を飲んでいるころでしょう。


# ぼくたちにお昼ごはん おごってくださいませんか？

## 2013年度 活動報告書 ～現地調査概要～

特定非営利活動法人IFE

まずはじめに訪れたのは2008年11月に開校した「いのうえ小学校」です。

(この小学校は日本人の方の寄付で建設されましたが、建設後はベナン共和国の文部省に譲渡し、公立小学校として運営されています。※その他IFE財団が建設に関わった小学校はすべて公立小学校として運営されています。)



シタヴェ・コジョ校長先生とPTA代表の方に案内され、給食を作っている調理場を案内してもらいました。調理場は二人で作業すると手一杯の空間。そこに二つの竈(かま)があり、一つはご飯を炊く鍋、もう一つはご飯にかけソースを作る鍋がかけられていました。薪を使った調理のため、燃料費もかなりかかるとのことでしたが、それでも地元の料理でかつ、温かい物を子どもたちに食べさせてあげたいとの思いから、毎日頑張っているとのこと

給食の時間になると、配膳室前に子供たちがお行儀よく並んで、一人一人給食を受け取っていました。(給食のお皿は所ジョージさん寄贈)そして思い思いの場所でご飯を食べるのですが、校庭中にスプーンを使う音(カツカツという音)と子供たちの話し声が響いていたのが、とても印象的でした。

いのうえ小学校を後にし、「あいのり小学校」、「所ジョージ小学校」に行き、先生、PTA代表、村の長老と挨拶をし、IFEが進める給食プロジェクトの運営への協力、理解を求めました。村の人たちからも、精一杯協力しますという力強いコメントとともに、日本の皆様への感謝の気持ちを伝えてほしいと言付けがありました。

最後に「たけし小学校」を訪問しました。この学校は、いのうえ小学校からさらに3時間以上北部に行ったところにあります。

そこで驚いたのは、子どもたちの多さです。

1999年に『ソマホンのほん』が出版された際には、たけし小学校建設に関して、地元の村人たちへの理解を求めるのは、かなり大変だった様子がうかがえますが(85頁～90頁)、今では建物が1つだけでは子供たちが入りきれず、第二校舎もでき、なんと託児所までありました。

私たちが到着すると、すぐに校長室でミーティングが開かれました。



給食を開始した結果、子どもたちの就学率が格段に上がった事の喜びと、その反面、先生不足など新たな

問題も出てきたとのことでした。

そんなミーティングの中で嬉しい意見もありました。

「給食は多くの日本人のお蔭で始めることができました。私たちはどんな協力ができますか？」と。

とても能動的な意見です。

それに対して私からは「どんな事があっても給食を継続して提供して下さい。継続することが一番大切です。」と伝えました。この思いがしっかり村の人に伝わってくれる事を願ってやみません。

ミーティングが終わって、いよいよ給食の視察です。校長室を出てみると、なんとソマホンが作った食堂のまわりに大勢の人だかりが……

どの子供たちも笑顔・笑顔でした！！



## 給食をわけあう。

給食を食べている子供たちを見ていると、時々ビニール袋にご飯を詰めている子供を見かけました。不思議に思い聞いてみました。「なぜ、袋にご飯を入れているの？」と。そうするとその子の周りにいた友達が、「家に帰っておなかのすいた時に食べるんだよ。」とニコニコしながら答えてくれました。他にも同じように袋にご飯を詰めている子供に同じ質問をすると、「まだ学校に通う年齢ではない、妹や弟にご飯を食べさせてあげるの。」と答えてくれました。

その後、IFE財団が関わっていない普通の公立小学校の給食の様子を見てみる事にしました。相変わらずお金のある子どもだけがご飯を食べて、お金のない子は食べていません。ただ、兄弟でしょうか、一つの皿に盛られたご飯を二人で分け合って食べていました。スプーンはなく、葉っぱで食べています。

飽食日本で育っているためか、平気で給食を残している子供たちや、給食費を払えるだけの経済的余裕があるにも関わらず、給食費を払わない人たちは、ベナンの様子を知って、どう感じるかな？と思いました。



## これからの給食プロジェクト・・・

給食プロジェクトが始って4年が経ちました。

ベナン共和国が建国してから53年目になりますが、これまで公立の小学校で給食はありませんでした。現在もありません。本プロジェクトなど一部の小学校でのみ、実証実験のような形で提供しています。

給食が無いということは、色々想像もつかない課題がありました。調理機材をどうするの？これまで小学校にご飯を売りに来て生計を立てていた人たちの生活はどうなるの？献立は誰が決めるの？衛生管理はどうするの？そして一番の課題は、「給食」という習慣が各村の人々に理解され、受け入れられるの？等の多くの課題を解決していかなければなりません。

4年間、運営をサポートさせていただき、また今回のベナン訪問で私が感じた事は、このプロジェクトの企画発案された方、ベナンに心を寄せてくださる日本の支援者の皆様、現地の村々に足を運び、給食の大切さを訴える現地IFE財団の職員たち、毎日のご飯を作る給食係の人たち、協力的な村の長老・・・そういった様々な人々の気持ちが海を越えてつながっていないと、このプロジェクトは成立しないということでした。

給食プロジェクトはこれからも継続していきたいと思います。そしていつか給食の必要性をベナン政府が認めて、最終的には日本からの支援が無くても、ベナン共和国全国の小学校で給食が提供できる事を願っています。また日本の子どもたちには、このプロジェクトを通して、学校給食のありがたさを少しでも伝えられたら・・・とっております。それまで、どうか今後ともご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

※今回のベナン共和国の渡航費用は給食費からは捻出しておりません。

ぼくたちにお昼ごはん おごってくださいませんか？

# 2013年度 活動報告書 ～動画配信～

特定非営利活動法人IFE

You Tube

ぼくたちにお昼ごはんおごってくださいませんか？

検索



長い間できなかつた動画配信が  
いよいよできるようになりました！

今回の現地調査の様子を動画で収録。  
ぜひインターネットで上記の言葉を入力し、  
検索してみてください。

動画があり



いのうえ小学校の給食の様子

## ●校長先生へのインタビュー

- 日本の皆さんに感謝したい。  
給食プロジェクトのお蔭で、  
遠い村からも子どもたちが  
小学校に通うようになった。  
(就学率が上がった。)
- 通常は7時に登校して、すぐに  
掃除から始めるんだ。
- 将来、ペナンの発展のために  
頑張ってくれる子供たちを育  
てたい。

動画があり



## ●給食スタッフにインタビュー

- 子供たちには手作りで温かい  
ものを食べさせてあげたい。
- 辛いソースにしているのは、  
髄膜炎予防にもつながる。
- 子供たちの健康の事も考えた  
献立づくりをするのよ。

# ぼくたちにお昼ごはん おごってくださいませんか？ 2013年度 活動報告書 ～いのうえ小学校～

特定非営利活動法人IFE



● いのうえ小学校に到着



● 給食は低学年から順番に  
並んで受け取ります。



● 白いご飯が嬉しい。



● 友達と校庭で食べます。



● 食べ終わると食器を皆  
で洗います。

# ぼくたちにお昼ごはん おごってくださいませんか？ 2013年度 活動報告書 ～たけし小学校～

特定非営利活動法人IFE

● たけし小学校に到着



● どの学校も給食はちゃんと列を作って並びます。これも教育。



● 今日はトウモロコシ。



● 食堂を作りました。

# 継続手続きのご案内

特定非営利活動法人IFE

## 1 お振込み

みずほ銀行 八王子支店 普通預金 1191043  
特定非営利活動法人 IFE きたの基金  
カナ名義 : トクヒ) IFE キタノキキン

### 手続き後のご連絡について

お振込名義だけでは、個人様を特定できない場合もございますので、お振込後にご連絡下さいますよう、お願い申し上げます。

### 領収書について

経費削減のため、領収書が必要な方のみに、事務局から領収書を発送いたします。必要な方は、ご連絡下さい。

### 各種変更について

初回のお申込時から住所等、変更がある場合は、変更内容をご連絡下さい。

## 2 ご注意

ご本人様確認をさせていただきますので、メールか同封のハガキにて、**お振込日**、**お名前**、**お振込名義**をご連絡下さい。なお、返信が遅くなる場合もございますが、何卒ご了承ください。

- ※生徒1名につき10,000円のお振込をお願いします。  
(お振込手数料はご負担下さい。)
- ※恐縮ですが、郵便での現金送付はお控え下さい。
- ※お振込み期限を9月30日(月)とさせていただきます。
- ※当事務局宛のご連絡はメールかハガキにてお願いします。

[lunch@npo-ife.jp](mailto:lunch@npo-ife.jp)

事務局はボランティアで運営しております。  
申し訳ございませんが、お電話でのご連絡はご遠慮頂けますよう、何卒ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。  
会員様の個人情報には責任をもって、管理しております。



特定非営利活動法人IFE

# NPO法人IFE

Non-Profit Organization IFE

〒193-0931

東京都八王子市台町2丁目12番16号

E-mail : [lunch@npo-ife.jp](mailto:lunch@npo-ife.jp)

Web : <http://npo-ife.jp/lunch/>